

とても貴重な環境と景観を守っています

ラムサール条約登録湿地
霧多布湿原



天然記念物
霧多布泥炭形成植物群落

霧多布湿原の中央部802haは、冷涼な気候で独特な植生が見られることから、1922(大正11)年に「霧多布泥炭形成植物群落」として国の天然記念物に指定されており、野鳥の宝庫でもあります。

浜中町を代表する自然環境は、霧多布湿原といっても過言ではありません。その重要性や希少性から、まちの自然環境を保全するためのさまざまな自然保護区が、霧多布湿原を中心につられています。面積は約3,168ha、東西約3~4km、南北約9kmです。北半分には旧砂丘列が並行して南走し、30以上の池沼が帯状に並列しています。南半分には、5つの川が樹枝状に広がっています。湿原の大部分は厚さ0.7~2.6mのミズゴケの泥炭地で、低層湿原から高層湿原までバラエティーに富んだタイプの湿原が見られます。4月から10月頃まで色とりどりの花が湿原を彩ることから「花の湿原」とも呼ばれています。「霧多布湿原センター」で詳しい情報を知ることができます。

花を訪ねて

たくさんの中から一部をご紹介します!

浜中町には「霧多布湿原」「湯沸岬」「幌戸沼」「アゼチの岬」など、植物にとって希少な生育立地が数多く残されています。寒冷な気候の影響もあいまって、本州ではなかなか見ることができない高山植物もごく身近に生育していることから、町内を移動する道路沿いでも可憐な花々と出会うことができます。

 エゾエンゴサク 4月~5月	 ミズバショウ 4月下旬~5月中旬	 エゾコノメソウ 5月	 エンコウソウ 5月~6月			
 ユキワリコザクラ 5月~6月	 シコタンキンポウゲ 5月~7月	 クロクリ 5月~7月	 ミツガシワ 6月	 オドリコソウ 6月	 ワスレナグサ 6月~9月	 ワタスゲ 6月~7月
 ハクサンチドリ 6月~7月	 クシロハナシロ 6月~7月	 センダイハギ 6月~7月	 フタマタイチゲ 6月~7月	 エゾカンゾウ 6月~7月	 ヒオウガイアヤメ 6月~7月	 ハマナス 6月~8月
 エゾフウロ 6月~9月	 エゾカワラナデシコ 7月~8月	 トウゲブキ 6月~8月	 エゾシシウド 6月~8月	 ウミドリ 7月	 エゾシモツケソウ 7月~8月	 ホザキシモツケ 7月~8月
 ノハナショウブ 7月~8月	 サワギキョウ 7月~8月	 ツリガネニンジン 7月~9月	 アッケシソウ 8月	 ノリツギ 8月	 タチギボウシ 7月~8月	 エゾリンドウ 8月~9月

※開花時期はその年の気候によりずれがあります。「霧多布湿原センター」で最新情報をご確認ください。

1 やちぼうず木道

霧多布湿原センターを起点に片道250mの木道とその周りを周遊するコースです。木道上で「やちぼうず大王」と呼ばれる大きなヤチボウズが迎えてくれます。センター正面の階段を下りきると木道の入り口です。木道の終点から林道に上がり、「こりんごの小径」に入ると約200mでセンター前に出ます。



2 琵琶瀬木道

やちぼうずカフェ前を起点に、片道500mの木道を往復するコースです。霧多布湿原前の道道123号沿いにある駐車場からCまでは木道、Cから木道先端までは木製のチップが敷かれており、先端となる終点は湿原の中を流れる泥川のほとりです。木道周辺では、湿原性の貴重な植物が次々に花開きます。



3 仲の浜木道

やちぼうずカフェ前を起点とし、700mの木道コース。道道123号沿いにある駐車場から近く、途中、道路へ上がるポイントがいくつかあります。湿原の植る木道なので、湿原の草花や



4 アゼチの岬

霧多布半島の西の端にあるアゼチの岬は、琵琶瀬湾に突き出した岬です。手前に小島・ゴメ島・嶮暮帰島を臨み、その向こうに琵琶瀬湾、浜中湾の海岸線を見渡すことができます。夏になると可憐なエゾフウロが花開き、花の最盛期にはエゾシシウド、エゾカンゾウ、ヒオウガイアヤメなどの群落を見ることが出来ます。



5 湯沸岬(霧多布岬)

湯沸岬の先端まで散歩できる遊歩道です。遊歩道の両脇や切り立つ断崖の側面には、5月頃に花開くユキワリコザクラ、群落が見られるエゾカンゾウやトウゲブキをはじめ、エゾフウロ、ヒオウガイアヤメ、ツリガネニンジン、オオカサモチ、シコタンキンポウゲなどの花を間近で楽しむことができます。

